陶山務（すやま つとむ）評論家。明治二十八年十一月二十七日鹿児島県生れ、昭和四十九年九月二十八日歿（一八九五―一九七四）。筆名春日晴而、陶山力、陶山荷史等。大正八年青山学院高等部卒。法政大学、東北学院大学各教授歴任。

譯著書、アロイシウス・ロオザア著『美の研究』（譯、大正十一年六月一日アルス）、『新しき日への文學論』（昭和二年十一月十日秀名社）、アプトン・シンクレア著『宗教信ずべき乎』（小野健人共譯、昭和五年四月十六日アルス）、『魂は哲學する』（昭和七年十一月十五日アルス）、『最近社會思想の展望』（昭和八年一月二十日弘學館書店）、『街頭の反テーゼ』（昭和八年五月十日小動書房）、ヘルデルリーン著『ヒュペリオン』（内題「思想するヒュペリオン」譯、昭和十年五月十五日第一書房）、『キエルケゴールの言葉』（譯、昭和十一年七月十日第一書房）、『戀愛・結婚の新展望』（昭和十一年九月二十八日大都書房）、高山樗牛著『人生讀本―春夏秋冬』（編、昭和十一年十一月五日第一書房）、カアル・ヒルティ著『病める魂』（譯、昭和十二年八月十日第一書房）、パウル・ガスト著『新しき生の形式』（譯、昭和十二年十一月二十日第一書房）、『若き日の哲學』（昭和十六年五月十日第一書房）、『吉田松陰の精神』（昭和十六年八月十五日第一書房「戰時體制版」）、アダムス・ベック著『東洋哲學夜話』（譯、昭和十七年六月二十日第一書房）、『中江藤樹の人生觀』（昭和十八

年六月二十日第一書房）、『道理への郷愁』（昭和二十四年十八月五日岡倉書房「岡倉新書」）、ウィル・デュラント著『哲学夜話』（舞、昭和二十九年四月五日早川書房）等。